

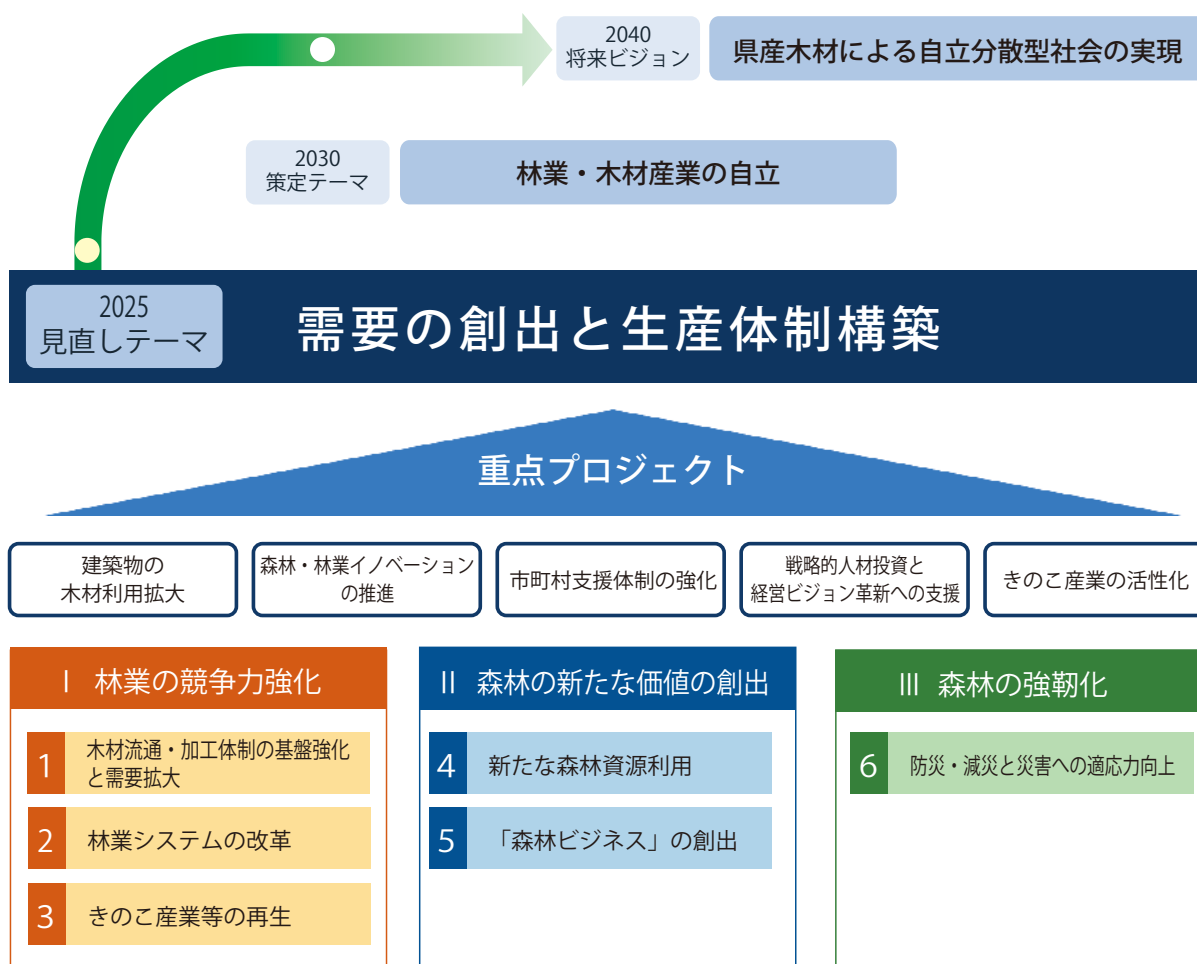
第4章 見直しのメインテーマと基本方針

1 計画見直しのメインテーマ

本計画は「林業・木材産業の自立」をメインテーマとし、その達成に向けた3つの基本方針のもと、自立した林業に支えられた「県産木材による自立分散型社会の実現」に取り組んできました。

計画策定から5年が経過し、建築物における木材利用の拡大や民間企業における森林への関心の高まりなど、森林・林業・木材産業を取り巻く環境は大きく変化しています。

このことから、計画見直しのメインテーマを「需要の創出と生産体制構築」とし、森林資源の循環利用をより重視する施策を推進し、収益性の向上を図り、林業・木材産業の自立と森林の適正保全による強靱化との両立を実現します。



基本方針Ⅰ 林業の競争力強化

建築物の木造化や加工体制の強化、林業イノベーションの推進などによる、需要創出と供給体制構築、きのこ産業の活性化により林業産出額※を増加させ、産業としての自立を実現します。

施策の柱

1 木材流通・加工体制の基盤強化と需要拡大

- (1) 建築物における木材利用拡大
- (2) 製材工場の加工体制強化
- (3) 木材の流通システムの整備

2 林業システムの改革

- (1) 森林・林業イノベーションの推進
- (2) 市町村支援体制の強化
- (3) デジタル化・自動化の推進
- (4) 戦略的人材投資※と経営ビジョン革新※への支援

3 きのこと産業等の再生

- (1) きのこと産業等の活性化
- (2) 安全・安心なきのこの生産体制支援

関連するSDGs



新・総合計画 柱Ⅴ 地域経済循環の形成

【5つのゼロ宣言2】
温室効果ガス排出量「ゼロ」

【5つのゼロ宣言4】
プラスチックごみ「ゼロ」

基本方針Ⅱ 森林の新たな価値の創出

森林の価値を見つめ直すことにより、社会情勢の変化や森林への多様なニーズに対応した森林の新たな価値を創出します。

施策の柱

1 新たな森林資源利用

- (1) エネルギーの「地産地消」事業の展開
- (2) マテリアル利用※の促進

2 「森林ビジネス」の創出

- (1) 森林の新たな価値を創出する取組の推進
- (2) 森林空間利用拠点の整備・強化
- (3) 県民参加の森づくり推進

関連するSDGs



新・総合計画 柱Ⅵ 官民共創コミュニティの育成

【5つのゼロ宣言2】
温室効果ガス排出量「ゼロ」

【5つのゼロ宣言3】
災害時の停電「ゼロ」

基本方針Ⅲ 森林の強靱化

利根川水系の「上流社会」としての責任を果たすとともに、県民の生命と財産を守るため、林業経営を通じた森林整備を推進するほか、条件不利な森林については公的管理により整備し、災害の防止や水源の涵養^{かん}、地球温暖化防止等の公益的機能が高度に発揮される森林づくりを推進します。

施策の柱

1 防災・減災と災害への適応力向上

- (1) 山地災害の防止・被害軽減
- (2) 森林の健全化促進と適正な保全
- (3) 新たな森林管理手法の構築
- (4) インフラ施設周辺森林の整備
- (5) 県民防災意識の向上

関連するSDGs



新・総合計画 柱Ⅱ 災害レジリエンスNo.1の実現

【5つのゼロ宣言1】
自然災害による死者「ゼロ」

【5つのゼロ宣言2】
温室効果ガス排出量「ゼロ」

【5つのゼロ宣言4】
プラスチックごみ「ゼロ」

見直しのメインテーマである「需要の創出と生産体制構築」を実現するため、5つの重点プロジェクトを定め、取組を強化します。

プロジェクト 1

建築物の木材利用拡大

将来ビジョン

高付加価値な県産木材需要の創出と循環投資の実現

背景と方向性

非住宅建築物における木材利用は未だ低位であり、住宅の木造率は8割程度で推移しているものの、県産木材利用は2割程度にとどまっています。県産木材の安定的な需要の確立のためには、木材需要の大部分を占める建築分野への利用定着が重要です。

このため、「建築物の木材利用拡大」に向け、直接的な建築支援、JAS材等の流通支援、設計などの技術支援といった取組を実施します。

取組1 非住宅木造建築アドバイザーの活用推進

- ◆ぐんま中大規模木造建築マイスターを基軸に、非住宅木造建築物に必要な流通や技術に関するアドバイスを行う窓口を設置し、非住宅の木材利用に取り組む県民を支援します。

取組2 建築物の木造化に取り組む者への県産木材利用促進支援

- ◆完全木造のみにこだわらず、木材を有効に活用する混構造や木質化等を推進し、県産木材利用量の拡大に取り組みます。
- ◆ツーバイフォー工法^{*}による住宅の建設を促進するなど、住宅への県産木材の活用を進め、輸入材や他県産材から県産木材への転換に取り組めます。

取組3 品質・強度の明確なJAS製材品の供給体制の強化

- ◆非住宅建築物の木造化を進めるため、機械等級区分などのJAS認証取得促進に取り組めます。

プロジェクト
2

森林・林業イノベーションの推進

将来ビジョン

森林・林業のビジネス価値の向上

背景と方向性

SDGsを契機として、様々な民間企業において森林・林業への関心が高まっています。また、近年のデジタル技術の著しい進展は、産業構造に大きな変革をもたらしています。

このような背景を踏まえ、森林・林業のビジネス価値の向上を目指し、「収益性の高い新しい林業の実現」と「森林の新たな価値の創出」の2つを基本理念に掲げ、「ぐんま森林・林業イノベーション推進方針」に基づき、次の取組を実施します。

取組1 民間企業や県内の森林・林業関係者の連携の促進

- ◆令和7年度に運用開始した「ぐんま森林・林業イノベーションプラットフォーム（もりびずぐんま）」を活用して、異業種・異分野の民間企業や県内の森林・林業関係者の連携を促進します。

取組2 IoT^{*}の活用等によるデジタル化の推進

- ◆地理空間情報やICT^{*}、ドローン等のデジタル技術を活用した省力化・効率化を推進します。

取組3 低コスト林業システム^{*}の導入

- ◆初期成長の良い苗木や早生樹^{*}の植栽、作業の機械化等により、保育・生産経費の削減を行い、皆伐・再造林^{*}による低コスト林業システムの導入を推進します。

取組4 地域材の高付加価値化の推進

- ◆広葉樹材や大径材の有効活用、効果的な流通体制の構築等、地域材の高付加価値化を推進します。

取組5 公益的機能のクレジット化の推進

- ◆水源涵養^{かん}、生物多様性保全、地球温暖化防止等の森林の公益的機能のクレジット化による新たな価値の創出に取り組みます。

取組6 森林ビジネスの創出支援

- ◆これまで利用されなかった森林資源や森林空間等を利用した新しいビジネスの創出を支援します。

「ぐんま森林・林業イノベーション推進方針」

1 基本理念

「収益性の高い新しい林業の実現」と「森林の新たな価値の創出」により、森林・林業を、自発的に成長を続ける魅力ある産業へ変革し、森林・林業のビジネス価値の向上を図ります。



2 基本方針

基本理念の実現に向け、次の4つを基本方針として、森林・林業のイノベーションを推進します。

方針1 異業種・異分野の民間企業の参入

異業種・異分野の民間企業と連携し、新しい技術やアイデアを積極的に取り入れます。また、民間企業と県内の林業関係者の連携の場となるプラットフォームの構築や森林情報のオープン化などにより、民間企業が参入しやすい環境を整備します。

方針2 スマート林業^{*}等による生産性・安全性の向上

ICT（情報通信技術）やIoT（モノのインターネット）、AI、ドローン、GNSS（全球測位衛星システム）^{*}などの先端技術の導入を推進し、林業の効率化と安全性向上を図ります。

方針3 新しい技術や手法による林業の収益性の向上

早生樹の導入、下刈りの省略、伐採・造林一体型作業による低コスト皆伐再造林、地域材の高付加価値化、流通改革による中間コストの削減などにより、収益性の向上を図ります。

方針4 森林を活用した新しいビジネスの創出

森林空間を利用した森林サービス産業、新たな森林資源の活用、二酸化炭素固定や生物多様性保全などの森林の公益的機能の価値化等、森林を活用した新しいビジネス（森林ビジネス）の創出に取り組みます。

群馬県では、幅広い分野の企業や森林・林業関係者の連携の場となるプラットフォーム「もりビズぐんま」を構築し、令和7年11月より運用を開始しました。

「もりビズぐんま」では、森林・林業に関する情報発信やWEBによるマッチングに加え、交流会や勉強会等のイベントを定期的に開催し、会員同士の連携を促進します。

「あたらしい繋がりが、森林・林業の未来を拓く」をキャッチフレーズに、様々な分野を越えた繋がりを通じて、群馬県の森林・林業を未来に繋げていきます。

ぐんま森林・林業イノベーションプラットフォーム



もりビズぐんま

あたらしい繋がりが、森林・林業の**未来**を拓く



背景と方向性

令和元年の「森林経営管理法」の施行により、市町村における森林経営管理制度の運用が始まりました。

制度開始から5年が経過し、各地域で取組が進んでいますが、市町村には、林業分野の知識を有する職員が少なく、担当職員は複数の業務を抱えているため、進捗状況が鈍化しています。

このため、「市町村支援体制強化」を重点プロジェクトとし、市町村を支援する体制を整備することにより、市町村を核とした森林整備の推進に取り組みます。

取組 1 市町村支援体制の整備

- ◆ 森林調査や意向調査対象森林の選定などの市町村業務を支援する体制を構築します。
- ◆ 支援組織と連携し、森林経営管理法の改正に対応した森林経営管理制度の円滑な運用を推進します。

取組 2 林業経営体の育成

- ◆ 意欲と能力のある林業経営者*等を対象とした実践的な研修を実施し、森林経営管理法の改正に伴う森林経営管理制度の円滑な運用を推進します。
- ◆ 市町村と林業経営者等の連携を進め、地域における集約化構想の策定等を推進します。

プロジェクト
4戦略的人材投資と経営ビジョン
革新への支援

将来ビジョン

地域の未来を支える林業の持続的経営の実現

背景と方向性

地域の林業は、少子化や労働人口減少に伴う担い手不足、労働災害発生率の高さ、脱炭素や生物多様性保全への対応など、社会情勢の多様化を背景に持続可能な経営基盤の強化が求められています。

このため、担い手の確保・育成・定着や現場力・安全性の向上への戦略的な人材投資と、多様な主体との連携や新たな収益モデル創出などを見据えた経営ビジョンの刷新が不可欠です。

地域の未来を支える林業の持続的経営を実現するため、組織力の向上と経営革新を後押しする支援を推進していきます。

取組 1

林業改革の根幹を支える戦略的な人材投資への支援

- ◆人材を「資本」として位置づけ、処遇改善、人材育成、安全装備の導入等への積極的な「投資」につながるよう、関係者の意識改革及び行動変容を促進します。
- ◆引き続き、林業従事者及び管理技術者のキャリア形成を推進します。
- ◆事業主だけでなく、林業従事者や管理技術者を含めた組織全体でデジタルスキル、経営スキル、マネジメント力の向上を推進して、現場における取組を促進します。

取組 2

新たな林業経営ビジョンの構築支援

- ◆森林整備や素材生産を基盤とする林業事業体が、多様な主体との連携や新たな収益モデルの創出、人材の確保・育成方針等を取り入れた「新たな林業経営ビジョン」を構築できるよう支援します。
- ◆林業従事者が自らの仕事に誇りを持ち、長く安心して働くことができるよう、処遇改善の取組を促進します。
- ◆林業が地域社会の持続可能性を支える産業となるよう、林業事業体の現場力・組織力及び安全性の向上を支援します。

背景と方向性

群馬県のきのこ産業は生産量が全国有数である一方、県産きのこの強みが十分に伝わらず、セールスポイントの不足が課題となっています。このため「ぐんまッシュ^{*}」による高付加価値化を進め、県産きのこの魅力発信とブランド力向上を図ることが重要です。あわせて、生産現場の省力化・低コスト化・効率化に向けた設備導入を支援するとともに、栽培管理や販売のデジタル化を促し、生産性向上と販路拡大につなげることで、持続可能な産地づくりを推進します。

取組1 市町村や関係団体と連携した食育事業、消費拡大事業の推進

- ◆地産地消の安心感を最大のセールスポイントとして消費拡大を図ります。
- ◆産学官民が一体となり、「ぐんまッシュ」が持つ地域固有の価値を高め、県民を中心とした愛着を醸成するPRを行います。

取組2 生産規模の拡大、生産コストの縮減に資するきのこ生産設備の導入支援

- ◆きのこ生産の省力化、低コスト化、効率化等を図るための機械導入や施設整備、栽培管理・販売のデジタル化などを支援します。
- ◆生産者ニーズに応じた栽培技術や生産支援システムなどの研究開発に取り組みます。

取組3 新たな県産きのこ品種の登録によるきのこ生産の技術普及

- ◆「ぐんまッシュ」の普及をリードするため、ムキタケ新品種の普及・生産拡大に向け、栽培技術の確立、生産者への導入促進、販路開拓等に取り組みます。